

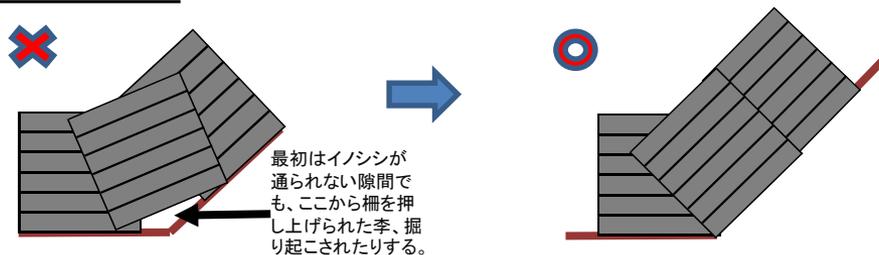
野生鳥獣侵入防止柵

の設置にあたっての注意点について

① 「隙間を作らない」

○トタン板

- トタン板柵隙間があると持ち上げられるので、複数のトタン板で隙間をなくす

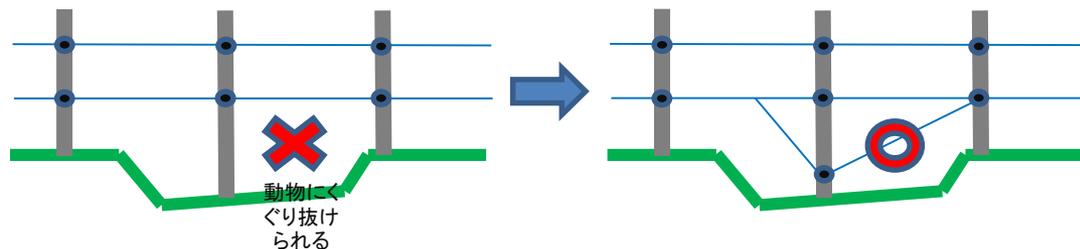


○ワイヤーメッシュ柵

- 隙間があると持ち上げられるので、ワイヤーメッシュを重ねて隙間をなくす

○電気柵

- 隙間があるとくぐり抜けられるので、地形の変化点に支柱を追加して電線を張る



② 「跳び越えられにくい高さで設置」

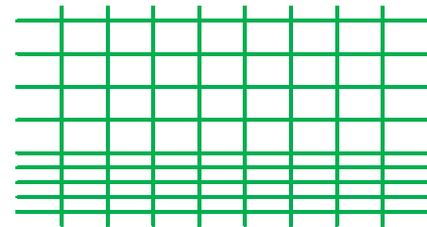
○ワイヤーメッシュ柵、金網柵の高さは、
イノシシ用は0.8m以上、
シカ用は1.5m以上を確保

【「野生鳥獣被害防止マニュアル 総合対策編」から引用】

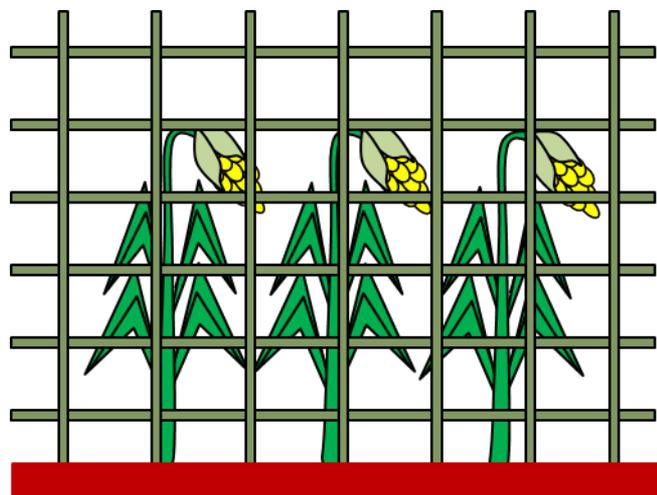
※実際のワイヤーメッシュ柵、金網柵の高さは、
イノシシ用は1.2m、
シカ用は1.8m又は2.0mが一般的

※目合いが10cmを超えると、ウリボウがくぐり抜けてしまうので注意しましょう。

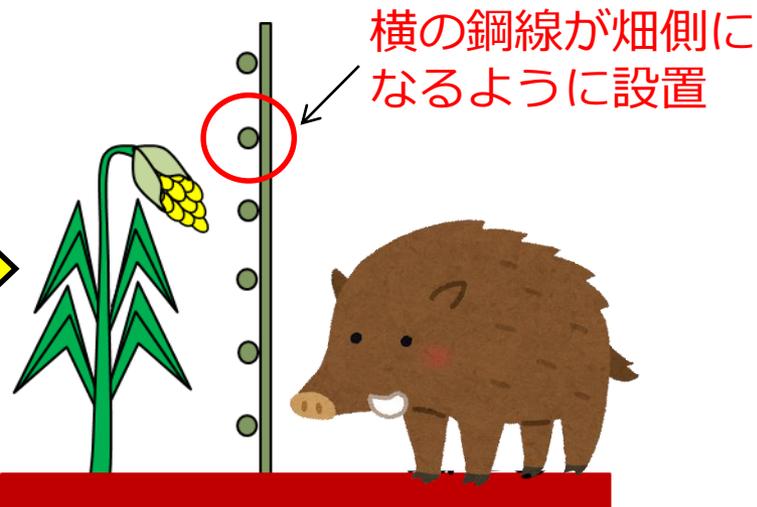
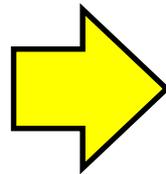
※ウリボウの侵入を防ぐために、下半分の間隔が狭くしてあるワイヤーメッシュ柵も市販されています。



③ 「ワイヤーメッシュ柵には向きがある」



イノシシから見た様子



真横から見た様子

※横の鋼線がイノシシ側の場合、イノシシが引っ張ることで溶接部分外れる可能性があります

※なお、すでに設置してある場合には、わざわざ向きを変える必要はありません

※上図のとおりに設置したとしても、イノシシの執着が強い場合は、柵を執拗に攻めてしまい、破損することもあります。

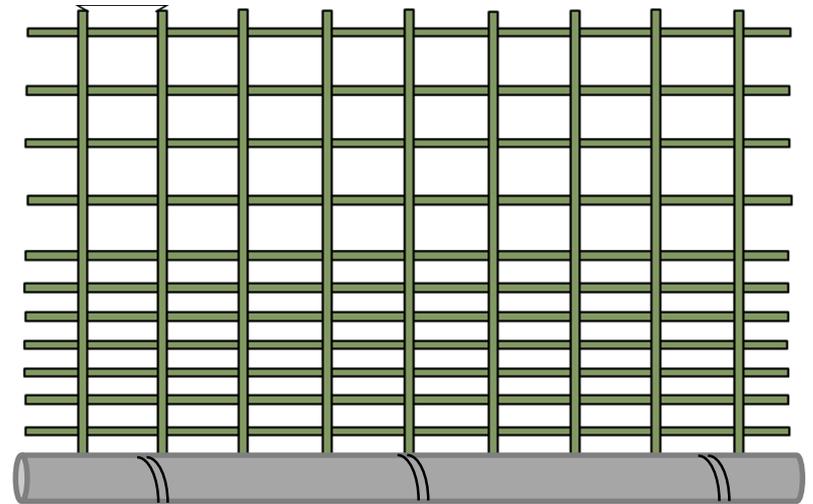
④ 「ワイヤーメッシュ柵と支柱は、1マス重ねて固定」



○結束する場合は、ステンレス結束線を使用しましょう

○ビニール線や結束バンドなど、引っ張り強度が弱く、紫外線で劣化する素材での結束は避けましょう

⑤ 「ワイヤーメッシュ柵の下部は、 地面に密着させるため、足で埋め込み、 アンカー等などで補強する」

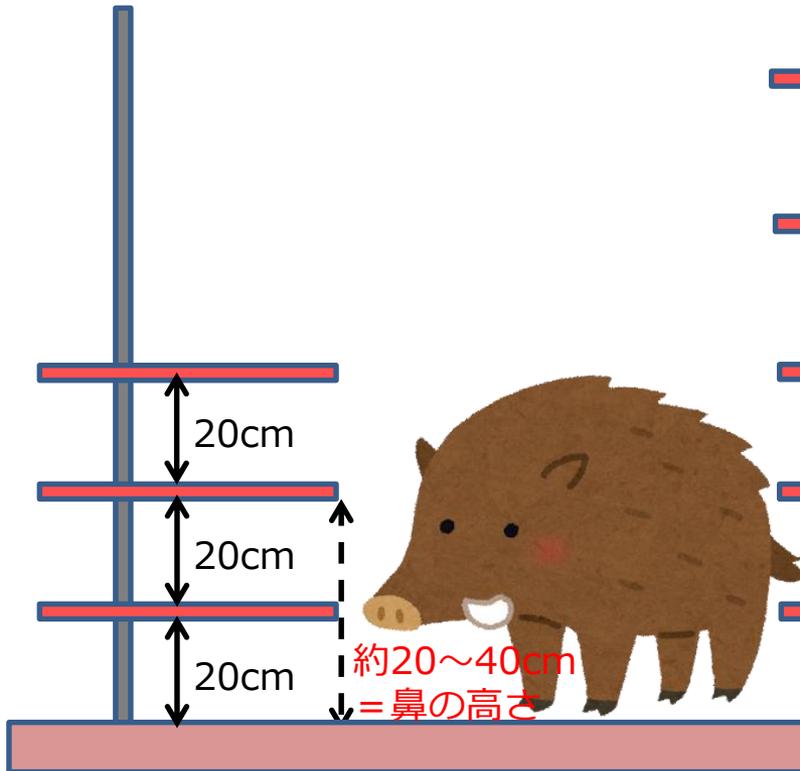


単管パイプのほか、竹や間伐木も代替可能

- 地面との隙間があると、イノシシは押し上げてしまいます
- 地面に凹凸がある場合や傾斜がある場合は、地面をならす、柵を切断するなどして隙間をなくしましょう

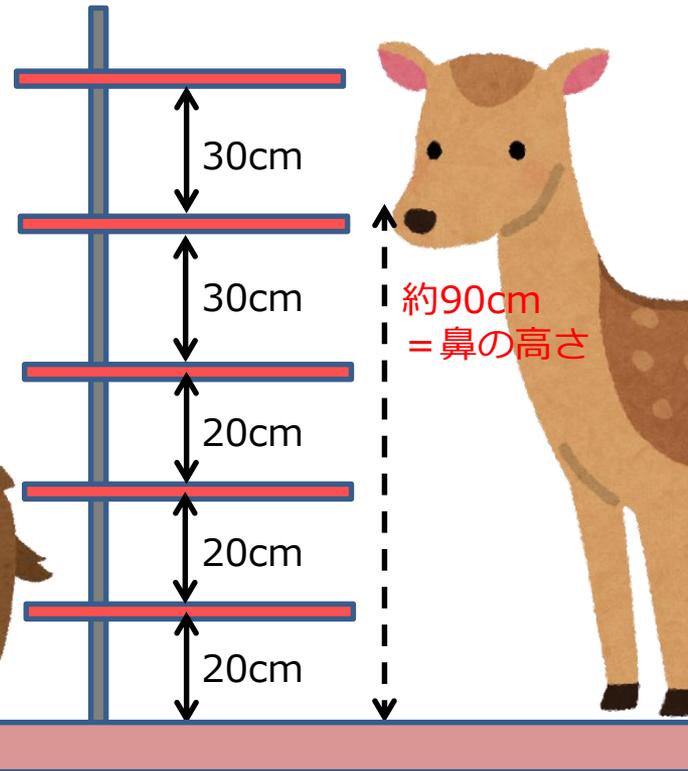
⑤ 「電気柵は鼻が当たる高さ」に設置

イノシシ用



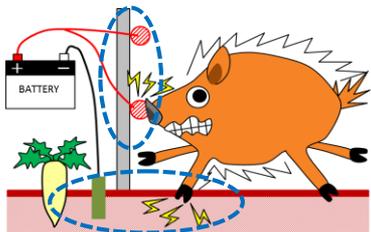
○20cm間隔で2~3段張り

イノシシ・シカ兼用



○地面から3段までは20cm間隔で張り、残りを30cm間隔に張って計5段

【参考：農作物を守る鳥獣害対策(江口祐輔 編著)】



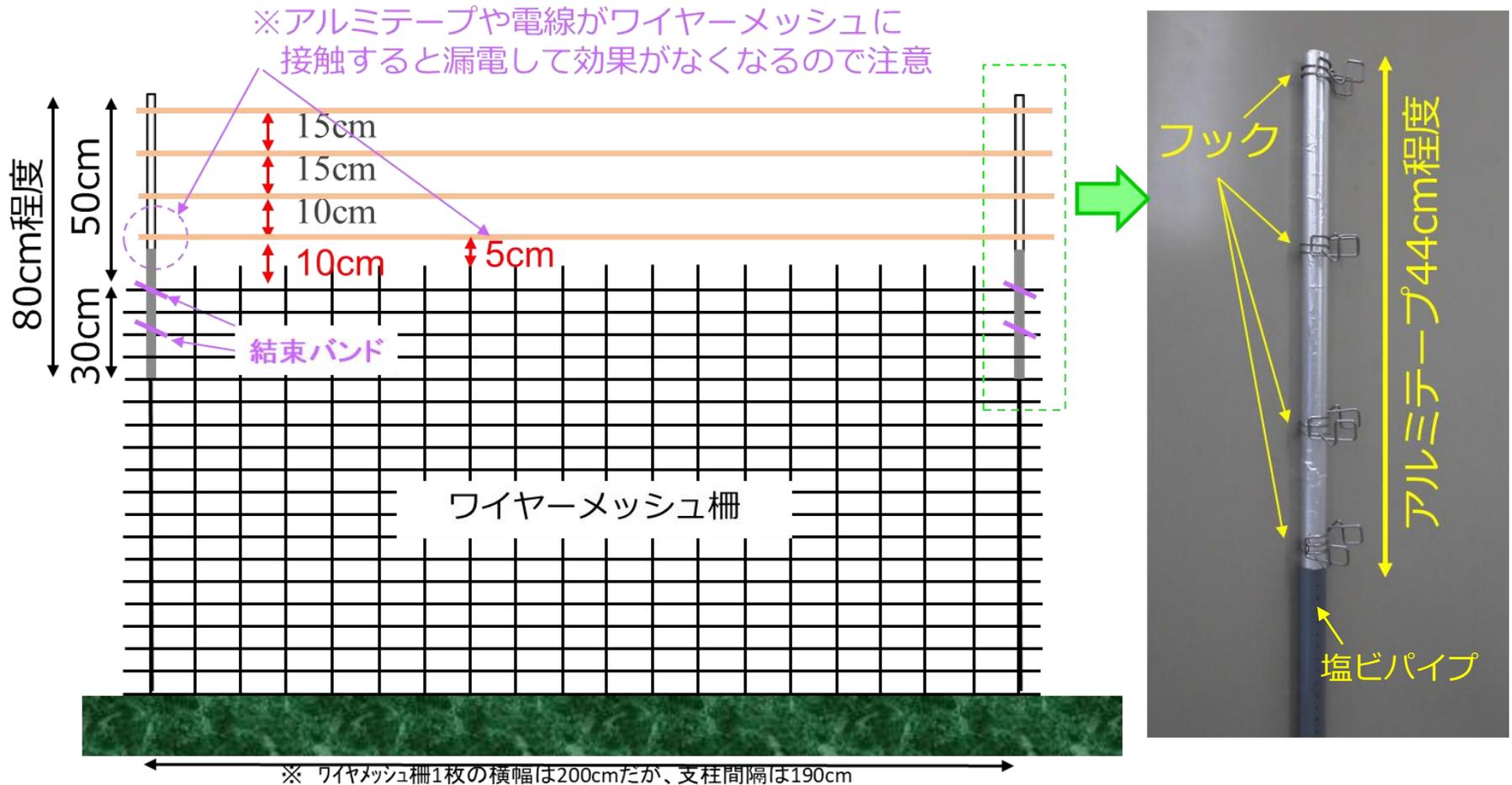
○電気柵に、イノシシ等が鼻でふれ、足が地面に接している時に、回路がつながり電気ショックを与えます。

⑤ 「電気柵の設置場所に注意」

- イノシシ等の足が地面につくように設置しましょう
(コンクリートやアスファルトは電気を通しにくい)
- 斜面近くを避け、できるだけ平らな場所に設置しましょう
- アースは説明書に沿って、適正に埋めましょう
- 草が電気柵線に触れると漏電し、必要な電圧を確保できなくなるため、こまめに草刈りを行いましょう。
(電圧の目安は、4,000ボルト以上)

⑤ 「サル対策はワイヤーメッシュ柵 + 電気柵」

○サルを柵に登らせて感電させる方法です。



○電牧器から電気柵線に+（プラス）線をつなぎ、ワイヤーメッシュ柵に-（マイナス）線をつなぎます。